明宮とは呼びたりけん。

○瀬波屋宇市傳

宇市が舊邸は、泉野神社の南隣の家にて、社殿の西南に當れり。故に宇市が家號をば西南宮と呼べり。西南宮をばせなみやといふ。瀬波屋の屋號にかたどれるもの也。宇市實名は鶏馬、別號東北齋、或は託花園、また暖雪樓、或は革山人と號す。金澤にて風雅の畸人にて、狂歌に其の名をとゞろかせり。門人頗る多く、江府の蜀山人・旅籠屋の飯盛、坂府の窓酒屋・鶴酒屋などゝ交を能くし、其の名をひとしくすと。狂歌集種々著述して、世に梓行し流布す。人口に膾炙する秀句ども多く、又在世中の傳話共も多く、于今世人口碑す。嘉永の初頃にや、金澤町會所の町役人と成る。或年の七月町役人の肝煎共多く轉役昇進し、宇一も一階昇りけるに、同僚共けふの一句は如何と勸めければ、取りもあへず蟬の聲をきゝて詠み出す。

めん〳〵はさきへ〳〵と昇りける

我もその尾につく〳〵　宇市

又或年の冬、藩侯鷹野に出で給ふ通筋の町家毎の軒端に、大根をかけて干し置きけるを、役人共、目障に成るべし悉く卸させとの事なりしかど、指懸り取卸すべき術なく、無是非簀を縣けて、見ねさるやうになし置きたれば、宇市取りあへず即吟に。

御通りに大根おろしおそ(遅)なつて

醬油がなうて酢をかけて置く

又或年の春、執政前田土佐守の邸内なる桃の花見に招かれけるに、宇市も伺候しけるが、人々詩歌俳諧などを作り、各短冊にしたゝめ、桃花の枝に結びつけゝるに、宇一も同じく一首仕りけり。

ふんどしにあらねどかいてさげにけり

もゝのあはひに結ぶ短冊

右の詠歌どもは、元より當座の座興に詠出せし句なりしかど、其の頓智怜悧の程おもひやるべし。此の外前件の如き語話多しといへども、爰に略す。

或は云ふ。春興の句に、

さわらびがにぎりこぶしを振あげて

山のかたつらはる風ぞふく

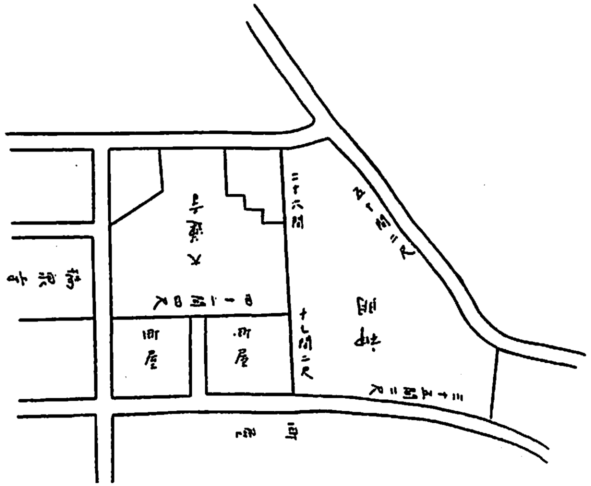
歿せし年の春の句に、

春の野とおもへば雪とすみれ草

きえてゆくのともえ出づるのと

○寶池山大蓮寺

淨土宗也。天明六年の由來書に云ふ。當寺開山衍蓮社廣譽恕白上人、最前は能州七尾西光寺之住職之處、慶長九年小塚淡路當地金澤へ招請被ㇾ致、御厩町に寺建立罷在處、其後御用地に相成被召上、爲代地於地黄煎町五十間四方之寺地拜領被仰付。然處遠所不辨に付、御斷申上移轉奉ㇾ願處、野町に於而寺地五百歩拜領被仰付。門前家數六軒有ㇾ之。と記載せり。按ずるに、七尾西光寺は鹿島郡小島村にあり。七尾の近隣なる故に、七尾西光寺と載せたるなるべし。御厩町は貞享由來書に御馬屋町とあり。今柿木畠御厩橋の地邊なるべし。野町の今の地へ移轉せし年曆詳かならずといへども、延寶の金澤圖に既に下の如く載せたり。



○野町願念寺

東派眞宗道場也。明細帳に云ふ。當寺開基は慶祐也。慶祐は山城國愛宕郡常葉町下間丹後法橋の次男にて、幼名を玉